

国際交流へのThe First Step ～その一步を踏み出そう～

代表者 野々山 翔子（医学部医学科3年）

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、世界の文化を知る楽しさを地域のひとたちや学生たちに味わってもらうことを目的としている。また、留学生同士、海外から日本へ来た中学生同士、互いの経験を共有し、それをまたほかの学生や地域に還元していく。多くの人々に、交流を通して相互に見聞を広めていく。

2. 実施期間（実施日）

平成22年6月1日 から 平成23年3月30日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業では、主に2つのことを行いました。一つは、医学部祭での展示および企画、またもう一つは海外から日本にきた留学生同士や、日本人学生との交流の企画です。

① 医学部祭での展示、報告会

医学部祭では医学部の学生が経験した留学プログラムの紹介を行いました。例年ブルネイダルサラーム国の唯一の大学（ブルネイ・ダルサラーム大学）の医学部に毎年医学生が基礎医学を学びに6～8人程度行っています。また、イギリスにはニューキャッスルアポンタイン大学医学部、セントジョージズ大学医学部に臨床医学を学びに毎年3人選ばれていっています。さらに、タイのチェンマイ大学医学部には医学科と看護科両方の学生が2、3人ずつ選ばれて臨床医学を学びにいっています。このような留学プログラム内容や現地で医療や文化の違いを経験してきた学生に展示をし、医学部祭に来てくださった地域の方や学生に見てもらいました。展示内容は模造紙に書いてもらい、留学の様子がより伝わるように写真を多く展示しました。また、同時に、ブルネイ留学者のほとんどが現地での伝統衣装を購入しているので、それらを貸し出し、医学部祭に来られた方に、試着してもらい、記念撮影を行いました。これにより、身近に異文化があることを感じ、知らなかったであろうブルネイダルサラーム国やイス

ラム文化を知ってもらえました。同時に、スムーズの配布を行い、気軽に展示に足を運んでもらえるようにしました。また、時折、学生自身が衣装を着て、ブルネイでの言語で話しかけながら構内を歩きまわり、運営側に回っている多くの学生や、またパンフレットを持っていない医学部祭に来てくれた方にブルネイへの関心、興味を促しました。また、各地への留学を終えると必ず学内へ向けての報告会を実施し、先生や、留学に参加していない学生にも留学の内容について理解してもらうよう努めました。

② 交流促進

このプロジェクト事業を通して、医学部内での留学生同士の交流を深め、医学部生と本学の学生など他の学部の留学を通じて交流していきたいと考えました。具体的には、まず医学部内での留学生同士の交流し、集まり、互いの伝統舞踊を披露したり、暮らしぶりや日本に来た経緯等を話してもらい、親睦を深める親睦会を企画しました。さらに、交流会を開いて、互いの留学プログラムを発表しあい、新しい意見をもらっています。留学で得た医学英語を伝えていくと同時に、さらに向上させていくために具体的に月に一度、医学部や本学での留学経験をもつ先生をお招きし、先生自身の体験談や勉強法、どのようなキャリア計画で海外留学を考え、それがどのように自身の人生に活かされたのかなどのお話を聞きする、講演会などを開いています。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、医学部だけでなく本学の留学生同士の交流が促進され、互いの文化に関する知識の理解や親睦が深まりました。また、報告会や親睦会の実施により学内の先生に対してもわたしたちの留学に対する熱意や、留学をすることの意義について周知することができました。

また、地域社会に対しても、短期留学生のホームステイを企画したり、医学部祭での展示、報告を行うことであまり知らないであろうイスラム圏の文化や宗教、生活習慣について、また、大学での留学プログラムについて知ってもらいました。医学部祭で衣装を着ることで、異文化を身近に感じ、イスラム文化を学んでもらえます。また、地域の人も、学生にも、留学プログラムから日本と海外の医療システムの違いを知ることで、ほかの国への関心も高まるきっかけとなりました。さらに、他の文化と自分の文化の違いや同じ部分を知ることで、あたりまえだと思っていたことにも意識が向き、自分の国や地域に目が向くようになりました。そして、そこでの問題を自分の身近な問題として捉え、自国に活かすこともできます。また解決への道を模索し、自分なりに意見を持つこともでき、自主性を高める事につながります。大学にとっては、今まで、単発で終わっていたものが、人を通じてつながり、今まで経験してきたことをこれからの世代へ渡していくことで、大学が築きあげた財産を継承し、またそれを地域に還元していけるなど、大きな影響を与えました。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

本プロジェクト事業を企画、実施することは自分たちの留学生活についてだけでなくほか学生の留学や留学生の国の背景についても学ぶことのできる貴重な機会になりました。また、留学生との交流は主に英語で行っていて、医学英語の重要性を再認識するとともに英語力の向上をはかることができました。親睦会などにも、初めて留学生と触れ合う、という学生を招待したり、ほかの部活の見学に行ったりすることで留学生の日本文化の理解や、留学について知らなかった学生にも興味を促せました。私たちにとっても、留学生の話聞くことで、自分たちの通っている香川大学や日本について国内だけでなく海外からの視点での意見を聞くことができ、大変有意義でした。具体的には、お互いの国について意見交換を行うことで、留学生の自国の政治や経済についての関心の高さを知ること、わたしたちも自分の国の政治や医療事情に興味をもつきっかけとなりました。



親睦会での集合写真



伝統衣装着用の様子

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

今回のプロジェクト事業では本学に在籍する留学生や留学に興味を持つ学生との交流がまだ足りないと感じたので今後は全学を通しての交流会の企画をもっとおこないたいと考えています。また、留学生との意見交換会などを催し、互いの国についてもっとふか買う考える機会を設けたいです。

今回のプロジェクト事業を通して、コミュニケーションの道具としての英語の大切さを改めて実感したので、今後行う留学や日本にきた留学生との交流を円滑にするためにもさらに英語力を磨くべきだと感じました。今後は、他の学生や地域の方にも交流する楽しさを知ってもらうことはもちろん、留学生の方々に香川や日本の文化について学生の視点からの意見を伝えていきたいと思っています。

7. 実施メンバー

代表者 野々山 翔子（医学部3年）

構成員 鈴木 泉（医学部5年）

新里 亜季（医学部5年）

本波 里香（医学部5年）

内藤 覚（医学部3年）

上柴 このみ（医学部3年）

山田 弓佳（医学部3年）

横井 麻里（医学部2年）

坂本 あすな（医学部2年）

木村 なちの（医学部1年）

天野 辰哉（医学部5年）

下西 成人（医学部5年）

白神 真乃（医学部4年）

郡司 朗子（医学部3年）

木建 薫（医学部3年）

小林 貴行（医学部3年）

大庭 聖也（医学部2年）

池田 結香（医学部1年）

藤原 健祐（医学部1年）